

審議会等の会議の記録

会議の名称	第1回 伊勢崎市健康づくり推進協議会
開催日時	令和6年7月9日(火) 13時30分～15時00分
開催場所	伊勢崎市役所東館3階 災害対策室
出席者氏名	<p>委員：12名（13名中12名出席で会議成立） 高橋会長、塩生副会長、岡部委員、矢部委員、柘野委員、井辻委員、中西委員、亀井委員、織田委員、高木委員、下城委員、小林委員</p> <p>事務局：15名 高柳部長、中野副部長、加藤課長、築瀬課長補佐、村越所長、小暮技監、堀越技監、丸橋所長補佐、小此木所長補佐、新井所長補佐、洪澤主幹、奥川主幹、神澤主査、須永主幹、細井所長</p> <p>(株)環境総合研究所：大谷、幸島</p>
傍聴人数	0名
会議の議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 諮問 伊勢崎市健康増進計画・食育推進計画（第3次）の策定について 4. 会長あいさつ 5. 委員自己紹介 6. 事務局職員紹介 7. 副会長の選出 8. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和5年度事業実績報告 (2) 令和6年度事業計画説明 (3) 健康増進計画・食育推進計画（第3次）策定方針と市民アンケート（案） (4) その他 9. 閉会
会議資料の内容	<p>令和5年度保健事業実績</p> <p>資料1 健康いせさき21（第3次）～健康増進計画・食育推進計画～ ～策定について</p>

	<p>資料 2-1 健康に関する市民アンケート（案）について</p> <p>資料 2-2 健康いせさき 2 1（第 3 次）の計画策定に関する 市民アンケート調査項目について</p> <p>資料 2-3 健康いせさき 2 1（第 3 次）～健康増進計画・食育推進計画～ 計画策定のためのアンケート 【親子と若年期】</p> <p>資料 2-4 健康いせさき 2 1（第 3 次）～健康増進計画・食育推進計画～ 計画策定のためのアンケート 【壮年期】</p> <p>資料 2-5 健康いせさき 2 1（第 3 次）～健康増進計画・食育推進計画～ 計画策定のためのアンケート 【高齢期】</p>
<p>会議における 議事の経過 及び発言の要旨</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 市長あいさつ 3. 諮問 伊勢崎市健康増進計画・食育推進計画（第 3 次）の策定に ついて 4. 会長あいさつ 5. 委員自己紹介 6. 事務局職員紹介 7. 副会長の選出 8. 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 令和 5 年度事業実績報告 (2) 令和 6 年度事業計画説明について <p>事務局 資料「令和 5 年度保健事業実績」に沿って説明</p>

【質疑】

委員

MRワクチンに関して、国が定めている95%以上を伊勢崎市はキープしているということで感謝している。

昨日、群馬県で麻しん・風しんに関する会議があり、群馬県全体では第1期、第2期が95%をわずかに下回っているとの報告があった。市町村によっては95%を割り込んでいるところがあるため、伊勢崎市は95%以上を維持してほしい。

また母子保健に関して、産後ケアのデイサービスや宿泊型医療機関は市内にどのくらいあるのか教えてほしい。

事務局

産後ケア事業の実施医療機関について、市内のクリニック、「新生産婦人科」や「あかつき（あかつきウイメンズクリニック）」、「フクイ産婦人科」、これらの医療機関で可能になっている。

委員

3つのクリニックでおこなっているということか。

事務局

その通り。

今年から前橋市の横田産婦人科なども契約ができたため、希望する方は利用できるようになっている。

また伊勢崎市民病院と調整もしており、現在準備中となっている。

委員

伊勢崎市は県内でも産婦人科施設が多いため協力してもらえるといいと思う。

委員

令和6年度保健事業計画に関して、(4)健康づくり事業で電子地域通貨「ISECA」によるインセンティブ付与をおこない、参加意識を高める目的であると思うが、実際の効果やどの程度を見込んでいるのか聞きたい。

事務局

コロナ以降下回っていた参加者は、今年度2倍の数字を見込んでいる。

毎月の参加者が徐々に増えていることを実感している。

(3)健康増進計画・食育推進計画（第3次）策定方針と市民アンケート（案）について

事務局

資料1に沿って説明

【質疑】

委員

基本方針が社会環境の質の向上ということで、運動を促す環境は健康だけではなく、インフラなども含めて市全体が動かなければ

ならないと思っている。

それに加えて、昨今の暑さ対策を考えながら運動を促す視点が必要になる。特に伊勢崎市は暑い地域であるため、暑さを避けながら運動できればいいと考えているが、そのあたりはどうか。

委員

今年度、アイオーしんきん伊勢崎アリーナ（市民体育館）の空調設備を整備する予定であり、9月から工事をおこなう。

中学校の体育館は今年まで、小学校の体育館は来年7月までに、すべての空調設備を整備することとなっている。これだけでは足りないが、取り組みのひとつとして準備している。

委員

体育館は生徒以外にも、市民に開放して休日使ってもらおう考えはあるか。

委員

アイオーしんきん伊勢崎アリーナ（市民体育館）は毎月第1日曜日に無償で開放している。

小・中学校の体育館は平日の夜に、学校開放で市民に使ってもらっている。その他体育施設もあるので、活用についてPRもおこなっていききたいと考えている。

会長

伊勢崎市は外国の方も多いいという中で、外国の方に特化した健康増進計画等はあるか。

事務局

特化した事業はないが、多くの方に参加していただきたいと考えている。ホームページのLanguage（言語）を選ぶと、母国語で訳されて色々な情報が取れるため、見て参加してもらえらと思う。

事務局

資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4、資料2-5に沿って説明

【質疑】

委員

資料2-5【高齢期】のアンケートで、問7「あなたは、次の10種類の食品群を週に何回くらい食べますか。」という設問を高齢期に限定している。

親子と若年期のアンケートで近い設問があったが、壮年期で同様の設問を入れない理由を知りたい。

事務局

東京都健康長寿医療センター研究所が用いている、食品摂取の多様性得点から引用している。

エビデンスとして高齢者に限定されているため、高齢期のみ聞いています。

委員

介護予防フェスタで「さあ、にぎやかにいただく」というチェックシートを使って、食事の聞き取りを行っているが、高齢者より

若者の方が10種類食べていない。
魚や果物は高齢者と若者と2割くらい開きがあった。若者からアクションをかけていかなければいけないと認識した。
忙しく食事を簡単に済ませがちになってしまうため、健康づくりを意識できるようにアプローチできればと考えている。

事務局

親子と若年期、壮年期は聞き方が異なるが、資料2-3【親子と若年期】のアンケート案の、問6で主食、主菜、副菜がそろった食事を1日2回以上食べているかをアンケートの項目に入れている。

会長

〈高齢期〉だけ問7が追加されているということだが、〈親子と若年期〉や〈壮年期〉に組み込むのは難しいのか。

ライフステージ別に比較していけば、早くから改善が必要なことがわかれると思う。

8月のアンケート調査で組み入れていくのが難しければ、考察の中に入れてほしい。

事務局

国、県の計画でも主食、主菜、副菜がそろった食事をとっている人の割合の増加を推進している。

特に高齢者については、フレイル予防に重点を置くため細かく調査をしている。

主菜も色々な食品を摂取するのが理想だが、実際には難しい状況の中で、1回の食事で主菜から何か1つでもとってもらうように、栄養バランスの良い食事のとり方として進めている。

乳幼児健診でも食事の指導をする中で、多種類の食品が取れないという現状がある。

まずは欠食せず、主食、主菜、副菜をそろえて食べるようすすめることがわかりやすいため、アンケートでもこの設問で進めていきたいと考えている。

委員

一日の平均歩数の設問について、どれくらいの日数の平均としているのか。

歩数を計るためのアプリなどを使っていない人は、2の「わからない、気にしたことがない」という回答になってしまうと思う。何かアプリを提供した方がいいのではないか。

事務局

歩数が書きづらいという意見もあった為、選択式も検討している。1,000歩単位での回答を考えているので、およその歩数を選択していただきたい。期間の取り決めは特にしておらず、自身の認識で良い。アプリの活用・非活用も特に決まりは設けず、日頃の認識で良い。ただ、歩数というのは運動の時だけでなく、日常生活で朝起きてから寝るまでの歩数になる。

委員

日常生活の歩数を入れるのであれば、アプリやスマートウォッチのようなものを身に付けていないと分からない。かえって分かりづらくなる懸念はないか。

事務局

自分の歩数を把握していくことが、健康に関心が出ていくことに

なり、その関心の程度を計ることが目的の一つとなっている。現在、自分の歩数は分からないという人が、数年後にはどの程度把握しているのかという点で見えていけるのではないかと思っている。

委員

県民健康・栄養調査の協力をしたことがあるが、その際は万歩計が配られて朝起きてから寝るまでつけてくださいと書いてあった。

歩数を書く人によって開始と終了が明確でないと結果にばらつきが出るのではないかと思う。

会長

選択肢で1, 000歩単位になると、細かい歩数ではなく動機付けの意味になる。

「わからない」と、「気にしたことがない」は一緒の選択肢になるのか。

わからないは数がわからない、気にしたことがないは関心がないになるため、分けていかないと動機付けの分析は難しくなると思う。最終的にどのように分析していくかで選択肢も変わっていくと思う。

事務局

検討させていただく。選択の種類も検討する。

会長

アプリを全員が持っていない中で、「わからない」という回答は迷いが生じてしまうかもしれないため検討していただきたい。

委員

歯科医としての立場で質問させていただくと、資料2-4【壮年期】のアンケートの問21で「あなたは、1年に1回以上定期的に歯科検診を受けていますか」という設問があるが、壮年期から高齢期の方は比較的、治療目的で歯科に通うことが多い。

設問の文言的に定期検診を受けているかという点で答えていただけるかはわからない。

事業実績で歯周病検診は4%しか受けていない実状があり、4%の人だけしか意識的に「1年に1回以上検診を受けています」と答えられないのではないかと思う。

1年以内に検診または治療を受けているかどうかの大切であり、口腔管理をされているかが設問の中心であることが望ましい。

治療や検診を受けていないことが問題であるので、設問の文言的には、そこまで読み取ることが難しいと思う。

また、問20の「あなたは、歯周病が糖尿病や心臓病など、生活習慣病の悪化や誤嚥性肺炎の原因になることを知っていますか」という問いで、本人が歯周病の自覚があるかどうか、あるいは歯周病に関心があるかを計ることは非常に大切だと思う。

コマーシャルでも歯磨きの宣伝で予防の知識として周知されているが、それが自分の口の中のことと関係があるのか、興味があるのかが大切だと思う。

選択肢が、「知っている」「知らない」の2択は適切ではないのでは。

会長

アンケートは意識調査や実態調査になるため知識を問うことは難

しいと思うが、今の意見を踏まえて見直しを検討することは可能か。

事務局

定期的な歯科検診受診の設問については、10年前に作成した健康増進計画の中の指標の1つになっている。

10年前に策定した計画であることから、考え方が昔のものになっているが、評価をする関係で、この設問は設ける必要がある。

会長

前回と比較検討する必要がある、そのためにこの項目は文言を変えずに使うということか。追加で意識や関心を計ることはできるか。

委員

歯科に関する調査はいくつか種類があり、近年の国民健康・栄養調査と比べることができる。

今さら10年前の質問と比較するのは、意味がないと思う。

事務局

今指摘いただいている審議内容は検討して追加していきたいと思っている。

歯周病検診の受診率については1桁台のパーセンテージになっているが、市民アンケートの中で「年に1回歯科検診を受診している人の割合」は平成25年では37.2%、令和元年調査では50.2%（令和元年度の目標値では45%）で、年々受診率は増えている。

健康な歯をもって将来元気でいるために口腔管理は大事になるため、追加していこうと思う。文言についてはあらためて検討していく。

委員

資料2-5【高齢期】のアンケート、問21の「食事をかんで食べる状態について」の設問で、選択肢の項目が「なんでもかんで食べることができる」「一部かめない食べ物がある」「かめない食べ物が多い」「かんで食べることができない」とあるが、現在の高齢者に対してはオーラルフレイルの予防が調査目的となる。

選択肢の内容については、調査しなくとも大体の回答結果はわかる。

壮年期と同じ質問ではないほうがいいと思う。

大切なのは噛めないものが増えてきたことに気付くことがフレイル予防につながる。質問の方法や選択肢の文言に工夫が必要ではないかと思う。

会長

今の意見も取り入れ、検討していただきたいが良いか。

事務局

了承。

(4) その他
特になし。

5. 閉会

	<p>会議で検討としていた意見に対する対応について。</p> <p><質問票：一日の平均歩数の回答方式について></p> <p>歩数についてはスマートフォンの機能や万歩計等で平均歩数を把握している人はその歩数を、1, 000歩刻みの選択肢で回答する方式に変更する。同時に、「わからない」と「気にしたことがない」を分けて選択肢とする。特に「気にしたことがない」を選択した人については、健康と歩数の関係性について知識や認識が不十分であるとして、施策の検討に活かしていきたい。</p> <p><質問票：歯に関する設問について></p> <p>①咀嚼の設問については、年齢と共に咀嚼の機能は低下していくため、「かめない食べ物があるが困っていない」「かめない食べ物が多く困っている」という選択肢の文言に修正し、自覚的な不自由さを確認する。</p> <p>②歯科健診受診の設問については、年齢と共に歯科医の管理下にある人が増えることから、年に1回以上、治療を含めた歯科受診について問い、口腔環境を整えることの大切さからオーラルフレイルについての施策に反映していきたい。</p>
--	--